

第3四半期報告書

本書は、EDINET(Electronic Disclosure for Investors' NETwork)システムを利用して金融庁に提出した第3四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものです。

株式会社フュートレック

(E05535)

目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
(1) 【株式の総数等】	5
① 【株式の総数】	5
② 【発行済株式】	5
(2) 【新株予約権等の状況】	5
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	5
(4) 【ライツプランの内容】	5
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	5
(6) 【大株主の状況】	5
(7) 【議決権の状況】	6
① 【発行済株式】	6
② 【自己株式等】	6
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期連結財務諸表】	8
(1) 【四半期連結貸借対照表】	8
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	9
【四半期連結損益計算書】	9
【第3四半期連結累計期間】	9
【四半期連結包括利益計算書】	10
【第3四半期連結累計期間】	10
【注記事項】	11
【セグメント情報】	11
2 【その他】	12
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	13

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成29年2月10日
【四半期会計期間】	第17期第3四半期（自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日）
【会社名】	株式会社フュートレック
【英訳名】	FueTrek Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤木 英幸
【本店の所在の場所】	大阪市淀川区西中島六丁目1番1号
【電話番号】	06-4806-3112（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 西田 明弘
【最寄りの連絡場所】	大阪市淀川区西中島六丁目1番1号
【電話番号】	06-4806-3112（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 西田 明弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第3四半期連結 累計期間	第17期 第3四半期連結 累計期間	第16期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年12月31日	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (千円)	2,118,908	2,592,607	3,866,504
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	△228,435	261,034	456,612
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 (△) (千円)	△231,215	147,811	310,502
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	△226,113	200,800	338,819
純資産額 (千円)	2,750,876	3,518,763	3,318,758
総資産額 (千円)	4,591,380	5,482,407	5,450,847
1株当たり四半期 (当期) 純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (△) (円)	△24.83	15.87	33.34
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額 (円)	—	15.84	—
自己資本比率 (%)	56.6	60.0	57.4

回次	第16期 第3四半期連結 会計期間	第17期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成27年10月1日 至平成27年12月31日	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日
1株当たり四半期純損失金額 (△) (円)	△12.39	△2.21

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額につきましては、第16期第3四半期連結累計期間については潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため、第16期については希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ (当社及び当社の関係会社) が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用や所得が堅調に推移する中、個人消費も持ち直しつつあり、緩やかに回復しています。また、日本国内のインバウンド市場については、平成28年の訪日外国人客数は2,400万人を超え、一人当たり消費額やその行動パターンに変化は見られますが、今後も引き続き拡大が見込まれております。

このような環境のなか、当社グループは、「Re-Built（リ・ビルト）の総括」として、新たな柱となる事業の創出と拡大に努めてまいりました。

音声認識事業においては、継続して自動車関連業界及びインバウンド市場関連等へ、事業の収益化に向けた活動を積極的に展開いたしました。具体的な成果として、当第3四半期連結累計期間に、音声認識技術のライセンス供与にかかる売上及び受託開発業務にかかる売上が計上されました。また、新しい事業への取り組みとして、ウェアラブル翻訳デバイスや各種ロボット等へ向けての開発及び営業活動を積極的に展開いたしました。

翻訳事業においては、株式会社みらい翻訳との協業や、株式会社ATR-Trekが総務省により採択された「多言語音声翻訳の利活用に関する開発・実証」への共同提案等による機械翻訳事業、及び株式会社メディア総合研究所の人手による翻訳事業の拡大に努めております。当第3四半期連結累計期間においては、音声翻訳関連の売上の一部が機械翻訳として計上されました。

その他事業におけるインバウンド市場関連においては、インバウンド商材の拡充を目的として、平成28年8月1日付で株式会社アドホックの事業を会社分割（簡易吸収分割）により当社が事業承継し、承継した多言語対応の観光用自動ガイドシステム事業を中心として、効果的な拡販活動に努めております。

当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績としましては、売上高は2,592,607千円（前年同四半期比22.4%増）、営業利益は276,617千円（前年同四半期は営業損失210,379千円）、経常利益は261,034千円（前年同四半期は経常損失228,435千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は147,811千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失231,215千円）となりました。

セグメントごとの当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、次のとおりであります。

セグメントの名称	第16期 第3四半期連結累計期間 (千円)	第17期 第3四半期連結累計期間 (千円)	増減 (千円)
ライセンス事業	986,486	1,319,337	332,851
翻訳事業	638,553	708,558	70,004
その他事業	493,868	564,711	70,842
売上高合計	2,118,908	2,592,607	473,698

① ライセンス事業（音声認識・U I ソリューション事業分野、CRMソリューション事業分野 他）

売上高は1,319,337千円（前年同四半期比33.7%増）となりました。

音声認識・U I ソリューション事業分野の売上高は1,139,411千円（同51.4%増）となりました。前第3四半期連結累計期間と比較し、主に音声認識技術のライセンス供与にかかる売上が計上されたことによるものであります。

CRMソリューション事業分野の売上高は144,621千円（同13.6%減）となりました。前第3四半期連結累計期間と比較し、主に受託業務にかかる売上が減少したことによるものであります。

② 翻訳事業（翻訳事業分野）

売上高は708,558千円（同11.0%増）となりました。前第3四半期連結累計期間と比較し、主に人手翻訳にかかる売上の増加及び音声翻訳関連の売上の一部が機械翻訳として計上されたことによるものであります。

③ その他事業（基盤事業分野、書き起こし事業分野、IT事業分野、映像事業分野、国際事業分野 他）

売上高は564,711千円（同14.3%増）となりました。前第3四半期連結累計期間と比較し、書き起こし事業分野、IT事業分野及び国際事業分野においては受託業務の増加により売上高は増加しましたが、基盤事業分野及び映像事業分野では受託業務の減少により売上高は減少いたしました。

また、その他の増加要因として、吸収分割により承継した株式会社アドホックの事業に係る売上が、第2四半期連結会計期間より計上されております。

（2）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

（3）研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は95,859千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	31,744,000
計	31,744,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数（株） （平成28年12月31日）	提出日現在発行数（株） （平成29年2月10日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,459,200	9,459,200	東京証券取引所 （市場第二部）	単元株式数 100株
計	9,459,200	9,459,200	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 （株）	発行済株式総 数残高（株）	資本金増減額 （千円）	資本金残高 （千円）	資本準備金増 減額（千円）	資本準備金残 高（千円）
平成28年10月1日～ 平成28年12月31日	—	9,459,200	—	716,570	—	914,795

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成28年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 146,400	—	単元株式数 100株
完全議決権株式（その他）	普通株式 9,311,700	93,117	単元株式数 100株
単元未満株式	普通株式 1,100	—	—
発行済株式総数	9,459,200	—	—
総株主の議決権	—	93,117	—

② 【自己株式等】

平成28年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社フュートレック	大阪市淀川区西中島六丁目1番1号	146,400	—	146,400	1.55
計	—	146,400	—	146,400	1.55

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、前事業年度の有価証券報告書に記載した事項を除き、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	事業開発部長	常務取締役	事業開発部長	古谷 利昭	平成28年6月17日
取締役	事業推進本部副本部長 兼 インバウンド&プロモーション事業推進部長	取締役	事業推進本部副本部長 兼 インバウンド事業推進部長	吉田 一也	平成28年8月1日
取締役	事業推進本部副本部長	取締役	事業推進本部副本部長 兼 インバウンド&プロモーション事業推進部長	吉田 一也	平成28年10月21日

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,530,819	3,186,850
受取手形及び売掛金	440,020	469,752
有価証券	100,000	100,000
仕掛品	39,255	214,816
その他	106,931	133,533
貸倒引当金	△2,762	△2,424
流動資産合計	4,214,265	4,102,528
固定資産		
有形固定資産	75,388	79,914
無形固定資産		
のれん	205,485	262,079
ソフトウェア	263,120	243,151
無形固定資産合計	468,605	505,231
投資その他の資産		
投資有価証券	605,244	709,340
その他	111,582	85,429
貸倒引当金	△24,238	△37
投資その他の資産合計	692,588	794,732
固定資産合計	1,236,582	1,379,878
資産合計	5,450,847	5,482,407
負債の部		
流動負債		
買掛金	201,445	127,716
短期借入金	—	35,000
1年内返済予定の長期借入金	510,008	505,822
未払法人税等	75,830	39,031
賞与引当金	45,786	46,485
その他	283,792	192,263
流動負債合計	1,116,864	946,318
固定負債		
長期借入金	1,002,486	1,000,000
繰延税金負債	12,739	17,324
固定負債合計	1,015,225	1,017,324
負債合計	2,132,089	1,963,643
純資産の部		
株主資本		
資本金	716,570	716,570
資本剰余金	903,938	903,938
利益剰余金	1,550,564	1,698,376
自己株式	△69,963	△70,014
株主資本合計	3,101,109	3,248,870
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30,020	40,814
その他の包括利益累計額合計	30,020	40,814
新株予約権	8,978	16,581
非支配株主持分	178,649	212,496
純資産合計	3,318,758	3,518,763
負債純資産合計	5,450,847	5,482,407

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
売上高	2,118,908	2,592,607
売上原価	1,326,056	1,281,144
売上総利益	792,852	1,311,462
販売費及び一般管理費	1,003,231	1,034,845
営業利益又は営業損失(△)	△210,379	276,617
営業外収益		
受取利息	1,960	330
受取配当金	4,766	3,740
助成金収入	1,984	—
貸倒引当金戻入額	—	1,832
業務受託料	900	2,700
その他	1,708	944
営業外収益合計	11,319	9,546
営業外費用		
支払利息	6,901	6,144
為替差損	—	1,211
投資事業組合運用損	1,348	2,910
持分法による投資損失	20,389	14,488
その他	736	375
営業外費用合計	29,375	25,129
経常利益又は経常損失(△)	△228,435	261,034
特別利益		
新株予約権戻入益	30,902	—
受取保険金	2,235	—
特別利益合計	33,137	—
特別損失		
投資有価証券売却損	—	4,571
事務所移転費用	1,155	—
特別損失合計	1,155	4,571
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△196,452	256,462
法人税、住民税及び事業税	4,469	73,924
法人税等調整額	8,622	△7,454
法人税等合計	13,091	66,470
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△209,544	189,992
非支配株主に帰属する四半期純利益	21,670	42,180
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△231,215	147,811

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△209,544	189,992
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△16,569	10,807
その他の包括利益合計	△16,569	10,807
四半期包括利益	△226,113	200,800
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△247,763	158,605
非支配株主に係る四半期包括利益	21,650	42,194

【注記事項】

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
減価償却費	110,302千円	102,645千円
のれんの償却額	27,050千円	28,406千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」等を適用しております。これにより、当第3四半期連結会計期間末の資本剰余金が10,856千円減少しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	ライセンス事業	翻訳事業	その他事業	調整額(注1)	合計(注2)
売上高					
外部顧客への売上高	986,486	638,553	493,868	—	2,118,908
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,535	30,053	547	△32,136	—
計	988,021	668,606	494,416	△32,136	2,118,908
セグメント損失(△)	△91,162	△30,802	△88,648	233	△210,379

(注) 1. セグメント損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	ライセンス事業	翻訳事業	その他事業	調整額（注1）	合計（注2）
売上高					
外部顧客への売上高	1,319,337	708,558	564,711	—	2,592,607
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,231	6,563	8,387	△20,181	—
計	1,324,568	715,121	573,098	△20,181	2,592,607
セグメント利益又は損失（△）	415,409	△30,538	△107,084	△1,169	276,617

（注）1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額（△）	△24円83銭	15円87銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額（△）（千円）	△231,215	147,811
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額（△）（千円）	△231,215	147,811
普通株式の期中平均株式数（株）	9,312,800	9,312,767
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	—	15円84銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額（千円）	—	—
普通株式増加数（株）	—	20,234
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

（注）前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため、記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 2 月 7 日

株式会社 フュートレック

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業 務 執 行 社 員

公認会計士

井上 嘉之

指定有限責任社員
業 務 執 行 社 員

公認会計士

目細 実

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フュートレックの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フュートレック及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。